

## おもな人事

### △辞職▽

令和2年3月31日付け

専門調査員 調査及び立法考査局総合調査室主任

豊田 透

専門調査員 調査及び立法考査局政治議会調査室主任

大曲 薫

専門調査員 調査及び立法考査局憲法調査室主任

山田 邦夫

専門調査員 調査及び立法考査局財政金融調査室主任

加藤 浩

専門調査員 調査及び立法考査局経済産業調査室主任

岩本 康志

専門調査員 調査及び立法考査局農林環境調査室主任

岩澤 聡

主幹 調査及び立法考査局総合調査室付

田中 嘉彦

### △退職▽

令和2年3月31日付け

主幹 調査及び立法考査局海外立法情報調査室付

岡村 志嘉子

### △異動▽ ※（一）内は前職

令和2年4月1日付け

専門調査員 調査及び立法考査局総合調査室主任

（専門調査員 調査及び立法考査局外交防衛調査室主任）

山崎 治

専門調査員 調査及び立法考査局政治議会調査室主任

（専門調査員 調査及び立法考査局海外立法情報調査室主任）

専門調査員 調査及び立法考査局総合調査室付

廣瀬 淳子

専門調査員 調査及び立法考査局憲法調査室主任

（関西館長） 本吉 理彦

専門調査員 調査及び立法考査局経済産業調査室主任

（国際子ども図書館長） 寺倉 憲一

専門調査員 調査及び立法考査局総合調査室付

小池 拓自

専門調査員 調査及び立法考査局外交防衛調査室主任

（主幹 調査及び立法考査局社会労働調査室付） 鈴木 滋

専門調査員 調査及び立法考査局財政金融調査室主任

（主幹 調査及び立法考査局財政金融調査室付、財政金融課長事務取扱） 深澤 映司

専門調査員 調査及び立法考査局農林環境調査室主任

（調査及び立法考査局次長） 森田 倫子

専門調査員 調査及び立法考査局海外立法情報調査室主任

（主幹 調査及び立法考査局海外立法情報調査室付） 泉 眞樹子

関西館長 電子情報部副部長、電子情報企画課長事務取扱

木藤 淳子

国際子ども図書館長（収集書誌部副部長） 堀 純子

調査及び立法考査局次長（主幹 調査及び立法考査局経済産業調査室付、経済産業課長事務取扱） 樋口 修

主幹 調査及び立法考査局総合調査室付（関西館次長）

中渡 明弘

主幹 調査及び立法考査局総合調査室付（主幹 調査及び立法考査局文教科科学技術調査室付、文教科科学技術課長事務取扱）

ローリーミカ

利用者サービス部副部長（主幹 調査及び立法考査局総合調査室付、調査企画課長事務取扱）

電子情報部副部長（主幹 調査及び立法考査局総合調査室付）

藤本 和彦

総務部副部長、総務課長事務取扱（総務部企画課長）

三浦 良文

総務部副部長、企画課長事務取扱（総務部企画課長）

大場 利康

総務部副部長、会計課長事務取扱（総務部会計課長）

伊藤 克尚

総務部副部長、管理課長事務取扱（利用者サービス部サービス企画課長）

福井 祥人

司書監 総務部付、国際子ども図書館企画協力課長兼

（国際子ども図書館企画協力課長） 紫藤 美子

主幹 調査及び立法考査局経済産業調査室付、経済産業課長事務取扱（調査及び立法考査局国会分館長）

奥山 裕之

主幹 調査及び立法考査局海外立法情報調査室付

（調査及び立法考査局海外立法情報課長） 三輪 和宏

収集書誌部副部長、収集・書誌調整課長事務取扱

（収集書誌部収集・書誌調整課長） 秋山 勉

関西館次長（関西館電子図書館課長）

柴田 昌樹

このたび、4月1日付けで、第17代国立国会図書館長を拝命いたしました吉永元信です。これまで皆様からいただきました国立国会図書館に対するご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。また、新型コロナウイルスの感染拡大防止のための臨時休館等により、利用者の皆様にご迷惑をおかけしておりますことを深くお詫び申し上げます。

1990年代から「電子図書館」という言葉が頻繁に語られ、平成10(1998)年に策定された「国立国会図書館電子図書館構想」では、「どこでも、いつでも、だれでも」という時間と空間に制約されない新しい図書館像がうたわれました。私が副館長をつとめた平成20(2008)年前後には、Google Booksの衝撃もあり、当館でも大規模デジタル化事業を行うなど、その国の文化財である資料は国立図書館がデジタル化する、という動きが世界的に顕著となりました。当時は、将来的にはすべての資料・情報が電子で流通するとも言われていましたが、現在は、紙と電子、それぞれの長所でバランスを取っているように思われます。

速度ではインターネット情報に劣りますが、図書館には図書館の大切な責務があります。資料や情報を収集し、正確な典拠をつけること、利用していただくために適切な検索手段を用意すること、そして特に国立図書館はそれらをその時代の知的文化財として未来永劫永久に保存し、残していくことです。

以前、トルコに旅行し、エフェesosという都市で古代ローマ時代のケルスス図書館の壮大な遺跡を見る機会がありました。古代ローマと近代以降では図書館の位置づけは違いかもありませんが、古代の時代から、資料を収集・保存し、情報を流通させようとしていた人間の強い意志が伝わってきました。

新型コロナウイルス感染が拡大しているこの状況下では、グローバル化の進展、近代的市民の良識、さらには日本の民主社会の在り方が問われています。このような緊急時、図書館は議論の俎上に上がりにくいものですが、じつは国民の知識の土台、よりどころを問うているように思います。収集した資料や

情報は国会議員や国民の知的情報基盤として寄与する、そのことが、国立国会図書館法前文にある「真理がわれらを自由にする」、「日本の民主化と世界平和」につながるものだ、とあらためて痛感しています。

国立国会図書館がそのような役割を十全に果たしていくためには、当館だけでなく、国内外の図書館、そして博物館や文書館といった他機関とも協力していくことが大切です。また、国会サービスをはじめとして、より高い専門性が求められているため、職員の育成を進めるとともに外部の専門家の協力を仰ぐことも必要だと考えています。

かように情報環境が移り変わる中、国会の図書館として、また唯一の国立図書館として、次世代の一層の発展につなげるべく、全ての職員とともに、誠心誠意、自らに課せられた職責を全うする所存です。重ねて、皆様のご理解とご協力をたまわりますよう、心からお願い申し上げます。